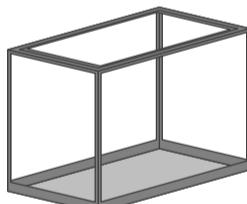


PET



水槽の選び方

さまざまな形の水槽が市販されているので、置き場所、飼う魚の種類や量に合わせて選べます。素材は透明度がよく、傷つきにくいガラス製がよいでしょう。また水槽に、ろ過装置、ヒーター、ライトなど熱帯魚を飼うのに必要な装置がセットになったものもあります。少数を飼う場合、初心者の方には、こちらがお勧めです。



セッティングの仕方

●設置場所

ポビュラーな幅60cmの長方形の水槽の場合、水を入れると60kgの重さになります。その重さに耐久できる平らな場所を選びましょう。直射日光が当たる場所は水温が左右されるので厳禁。できるだけ、騒音や振動のない場所に設置してください。

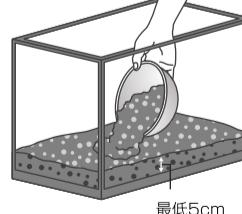
1 水槽と水槽に入れるもの洗う。

水槽と砂、石、アクセサリーなど水槽に入れるものをよく洗います。できるだけ洗剤を使わないように、洗剤を使った場合は成分が残らないようにしっかりと洗い流してください。



2 水槽の底に5cm位砂を入れる。

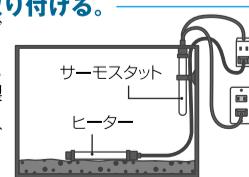
熱帯魚用の砂にはバクテリアの繁殖がよくベージュの色合いが美しい珪砂（けいさ）が人気がある。水草をたくさん繁殖させて楽しみたい場合は、南国砂（フィリピン砂ともいう）が向いている。



最低5cm

3 ヒーター、サーモスタットを取り付ける。

ヒーターとサーモスタットは、それぞれ独立して売られているもの、セットになっているもの、一体化しているものなど各種ある。取り付け方はその製品により、若干異なるが、いずれも、ヒーターを砂に埋めたりせず、またガラスに触れないようにセットする。



4 水温計と、岩やアクセサリーなどを配置する。

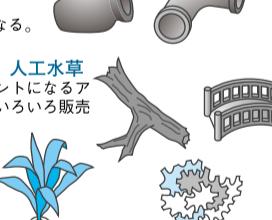
水温計は見やすいガラス面にキスゴムで取り付ける。岩やアクセサリーは、バランスよく配置する。



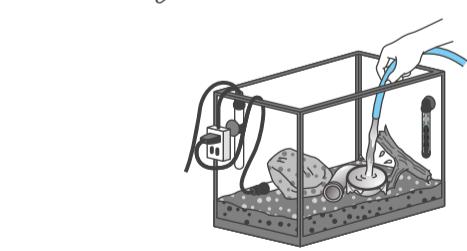
●岩
表面がザラザラしているもの、鋭くとがっているものは魚が傷つくことがあるので避ける。



●土管、壺
魚の隠れ家になる。

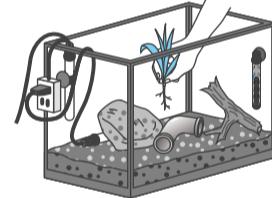


●流木、橋、人工水草
水槽のアクセントになるアクセサリーがいろいろ販売されている。



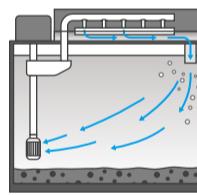
5 ヒーター類のスイッチを入れ、水草を植える。

ヒーターとサーモスタットのスイッチを入れて、水温が27°Cから28°Cになるよう設定する。しばらくおいて水温が安定したら、水でよく洗った水草を植える。



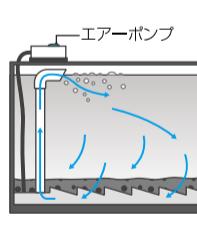
6 〈ろ過装置〉

●上部式フィルター
ボックス内のろ材を定期的に交換したり洗ったりといったメンテナンスが簡単にできる。



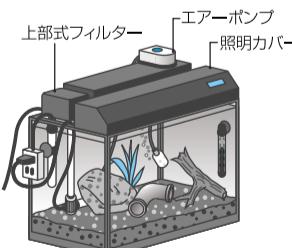
7 〈底面式フィルター〉

底面式を使用する場合は、砂を入れる前にセッティングを。このタイプはろ過能力が高く価格も手頃だが、水槽の底とフィルター板との間に汚れがたまりやすい。その際、砂と板を取り出して掃除しなければいけないので、面倒なうえ、水草をたくさん植える場合は不向き。



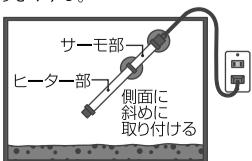
8 〈照明器具〉

蛍光灯を使用。住宅用でも利用できるが、観賞用、植物育成用も市販されている。カバーは水槽の大きさに合うように各サイズが揃っている。エアーポンプやサーモスタットのコンセントがついているものが便利。照明は、60cm幅の水槽の場合、20Wを目安に。1日に8~12時間、時間を決めて一定のサイクルで点けるようにする。光が足りないと水草が枯れたり、強すぎるとコケが大量発生するので注意。様子を見て、照明時間や強さを調整するといよ。



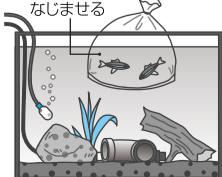
9 〈オートヒーター〉

ヒーターとサーモスタットが一体になっているタイプ。水槽が小型の場合に向く。ヒーター部分にセンサーを組み込み、電子サーモスタットに連結させたオートサーモスタットもある。どちらも配線コードが1本で済むため水槽回りがすっきりする。



10 〈水質をチェックする。〉

pH、亜硝酸、アンモニアの数値を調べる試薬や測定器が市販されているのでチェックを。魚によって、好みの水質は若干異なるので、魚を購入するときにお店の人聞くといい。水質検査の結果が魚の好みに合わない場合は、それに対応できる水質調整剤を使って調整を。



水槽の管理法

水が汚れていないか、水温は大丈夫か、毎日チェックしましょう。

●水が蒸発している場合

減った分だけ、水を補給します。この際、入れる水が少量なら温度調整やカルキ抜きをしなくても大丈夫です。

●コケが発生している場合

見苦しいうえ、水質の悪化につながるので、コケ取りクリーナーでこすり、ネットですくってきれいにします。

●水温が上がっている、下がっている場合

サーモスタットで温度調整を行います。停電や故障などで器具が使えない場合や、急いで温度を調整しなければいけない場合は、お湯あるいは氷水をビニール袋に入れて浮かべます。

●ろ過装置の点検

〈上部式フィルター〉

1カ月に1日くらいの割合でボックス内のろ材を点検し、目詰まりしないように軽く掃除（ろ材が古くなっている場合は交換）します。

〈底面式フィルター〉

2カ月に1度の割合で全体の水の交換と、水槽、フィルターの掃除を行います。



水の交換方法

水質が著しく悪くなかった場合は、水槽内の水を交換してください。

●全部の水を交換する場合

水が白く濁ったり悪臭がするとき、大量の魚が死んだとき、底面式フィルターを掃除するときは全部の水を交換します。

別の水槽やバケツに、カルキを抜いて温度調節をした水を入れる。そこにネットで魚をすくって移す。水槽内の器具、アクセサリー類を出す。水を捨てる（砂はザルで受けとよい）。水槽と水槽内のものをよく水洗いして、元通りにセッティングし直す。



●部分的な水の交換

病気の魚が出た場合は全体の1/4~1/3の水を、魚に元気がなく、食欲が落ちた場合は1/5~1/4の量の水を交換します。それで改善しない場合は、全体の水を交換してください。

水槽の魚、器具類はそのままにして、水替え用ホースで水をくみ出す。カルキを抜いて温度調節した新しい水を加える。

熱帯魚の飼育法

One Point Advice

エサの与え方

人工飼料が市販されています。味や粒の大きさなど各種揃っているので、お店の人に相談して、魚に合ったものを選びましょう。エサは、成魚なら朝、夕の2回、5分で食べ切る量を目安に与えます。稚魚は1日7~8回、幼魚は4~5回に分けて1回の量を少なめにするとよいでしょう。食べ残したエサをそのままにしておくと水質悪化の原因になるのでネットやスポイトでできるだけ取り出します。

